



みなさんと日本盲導犬協会を結ぶ会報です

盲導犬くらぶ

公益財団法人 日本盲導犬協会
発行人 井上 幸彦
223-0056 横浜市港北区
新吉田町6001-9
TEL.045-590-1595
FAX.045-590-1599
<https://www.moudouken.net/>

新たな時代へ
盲導犬と共に



今年度、日本盲導犬協会は創立55周年を迎えます。盲導犬育成のプロフェッショナルとしての変わらぬ使命を胸に、時代と共に多様化するニーズにも応えるべく、これからも愚直に歩んでいきます

皆さまから信頼され続ける協会として 夢を描き着実に歩みます



公益財団法人
日本盲導犬協会
理事長

井上幸彦

コロナ禍が続く中でも、協会は歩みを止めることなく事業を進めて参りました。世界的に対応が求められるSDGsの目標達成へ向け、昨年協会でもその目標に沿った中長期事業計画を打ち出しました。目の見えない、見えにくい方へ盲導犬を安定的に提供し、盲導犬と活動しやすい社会環境を整えるなど、2030年までに達成すべきゴールへ向け新たなスタートを切りました。

当協会には、視覚障害者の自立と社会参加に資するという変わらぬ使命があります。同時に事業に携わる職員からは、仕事へのやりがい、生きがいが求められていると思います。しかし与えられた仕事をやるだけでは、やりがいを得ることはできません。高い目標があって、それぞれが知恵を絞り努力をするからこそ、やりがい生まれ、生きがいにもつながるのです。

昨年野球界では、大谷翔平選手がメジャーリーグで凄

まじい活躍を遂げ、強烈なインパクトを残しました。投打二刀流という大きな夢を抱き渡米した大谷選手ですが、4年目にしてまさにその夢が花開いたわけです。

江戸幕末期の思想家、教育者である吉田松陰は「夢なき者に理想なし、理想なき者に計画なし、計画なき者に実行なし、実行なき者に成功なし。故に、夢なき者に成功なし」と夢を持つことの意義を語っています。たとえ小さくても職員一人ひとりが夢を持ってその実現へ向け計画を立て、実行していく。そうすることで社会の皆さまからも信頼され、職員のやりがいや生きがいも生まれてくるのではないかと思います。

夢を抱きながら、本年度も役職員一同事業に邁進して参ります。

日本盲導犬協会の歩み 2022.1.1 ~ 3.31

- 1月12日 第10回常任理事会
- 2月8・9日 第7回盲導犬育成ジャパンセミナー（オンライン開催）
- 2月16日 第11回常任理事会
- 3月3日 第12回常任理事会
- 3月24日 第3回理事会

↓3月1日 仙台訓練センターで「目の見えない、見えにくい方の災害に備える講習会」を開催。19人の参加者は災害伝言ダイヤルの操作方法などを体験しました



↑3月7日 医療機関向けオンラインセミナー（約100人参加）をきっかけに相談を受け、4月より都内数か所で開催する「サクラメンタルクリニック」を協会職員とPR犬が訪問。盲導犬同伴者の受け入れ方法を確認しました

→2月23日 「2=ふ、2=じ、3=さん」の語呂合わせに由来する富士山の約、富士ハーネスは通常の約4倍の来館者を迎え、盲導犬デモンストレーションを追加で開催するなど、にぎわいました



●各センター活動報告(1月~3月)

(2022年3月31日現在)

	神奈川訓練センター	仙台訓練センター	富士ハーネス	島根あさひ訓練センター
訓練・視覚障害サポート	共同訓練	6回	2回	1回
	パピーレクチャー	25回	15回	8回
	パピーウォーキング修了式	2回	1回	1回
	ユーザーフォローアップ	47回	34回	29回
	盲導犬説明会/盲導犬体験歩行会	1回	0回	4回
各種オンラインセミナー	7回			
リハビリテーション	短期リハビリテーション	0回	1回(3人)	0回
	その他リハビリテーション	211回(140人)	140回(166人)	41回(51人)
普及推進活動	見学会・団体見学	1回	1回	3回
	講演・実演・募金活動・受け入れセミナー	24回	39回	10回
	各種オンラインセミナー	9回		

メディア掲載件数

- テレビ・ラジオ 23回
- 新聞 18回
- WEB 84回
- その他(雑誌など) 17回

主な放送・掲載

- 1月2日~21日 中国新聞他TV1局WEB7件 広島矯正管区に協会募金箱を設置
- 1月17・23日 静岡朝日テレビ「いろどりナビ」他1局 トヨタカラー静岡株式会社社員による富士ハーネスでの清掃ボランティア活動
- 1月17日~2月9日 NHK「ニュースウォッチ9」他2局新聞2紙WEB6件 ゆうちょ銀行硬貨取扱手数料発生における影響や今後の対策について
- 2月4日~3月10日 点字毎日他1紙WEB48件 第7回盲導犬育成ジャパンセミナー（2月8、9日開催）の告知と紹介
- 2月8日 石巻かほく 石巻ヤクルト販売株式会社 寄付金贈呈式
- 2月18日 フジテレビ「坂上どうぶつ王国」アメリカ同時多発テロでビルからユーザーと脱出した盲導犬の再現映像制作に協力
- 2月19日~3月11日 静岡新聞他1紙TV1局WEB6件 株式会社三城が主催する「パブリック・ロービジョン商品体験会」に協会が協力
- 2月20日 NHKBS「ザ・ヒューマン」AIスーツケース(誘導型ロボット)開発者・浅川智恵子氏の特集番組制作に協力
- 3月1日 朝日新聞 医療機関向けオンラインセミナー（2月24日開催）の紹介

※協会ホームページにも毎月の放送・掲載情報を公開しています。順次更新しますのでご覧ください。

TOPICS!

主なできごとの中から
ピックアップ

新年度スタート会議開催 日本視覚障害者団体連合会長より 激励の言葉をいただきました

2022

年4月1日、神奈川訓練センターと他訓練センターをオンラインでつなぎ、年度始めとなる職員全体会議を開催しました。全職員が参加して本年度の協会事業方針を共有し、心新たにスタートを切りました。

当日は、日本最大の視覚障害当事者団体である社会福祉法人日本視覚障害者団体連合（以降、日視連）の竹下義樹会長がオンラインで講演くださり、貴重なお話を聴くことができました。内容の一部を紹介します。



社会福祉法人
日本視覚障害者団体連合
竹下 義樹会長

ボランティアに支えられ司法試験の点字受験を実現させ、1981年その最初の合格者となる。つくし法律事務所所長、高齢者、障害者、犯罪被害者の支援や貧困問題など、弱者救済の視点で人権擁護活動に取り組む。障害者関係団体の要職を歴任するほか、内閣府の障害者政策委員会などの委員も務める。

日本視覚障害者団体連合は、1948年に結成されて以来、わが国の視覚障害者福祉をリードしてきました。視覚障害者にとって住みやすい社会を追求すること、視覚障害者が自らの人生を意識し、自己実現を図ることのできる環境整備を目指して、当事者のニーズに即した活動を続けてきました。

見えづらさや見えないことから自らを取り戻し、生活の質を高めるとともに、就労を含め社会参加をするためには、視覚障害リハビリテーション（以降、視覚リハ）の果たす役割は大きく、自己実現へ向けた立ち直りのプロセスと言えます。視覚リハには、歩行訓練士や点字図書館、日常生活用具の使用指導者、眼科医、福祉施設、教育団体などが関わりますが、それぞれ単独では成り立たず、連携の中で組み立てられています。日本盲導犬協会も視覚リハに携わる当事者としてその連携の中にあります。

視覚障害者支援の本質は、情報保障です。私は盲導犬を使用したことがありませんが、犬は目、4本の脚、体全体でユーザーに情報を提供しているのではないかと



↑2015年12月、日本盲人福祉委員会の理事長として竹下会長（左）が日本盲導犬協会を訪れ、井上幸彦理事長と会談。東日本大震災で被災した視覚障害者の支援の継続と引き続きの協力を誓い合いました。竹下会長の期待に応えるべく協会は力を結集して、視覚リハの発展に貢献していきます

想像します。主人公はユーザーであって、犬の基本的な役割は情報の提供です。これは白杖であれガイドヘルパーであれ同じです。すべては一人の人の進歩を引き出すためのものであるべきだと考えます。

例えば、ガイドヘルパーと外出することで意欲がわいてきて、白杖の歩行訓練を受けてみたい、盲導犬とも歩いてみようと思えるようになる。その時、点字ブロックも含めて、すべてが当事者を視覚リハへと結びつけるための社会資源となります。視覚リハにおいては、これらの社会資源を組み合わせ活用し、視覚障害者が主体的に歩くことをサポートするという認識がとても重要です。

その人が最も歩きやすく、自分らしく外出できるようサポートするにはどうしたらよいか？「原点は常に当事者にある」と確信しています。盲導犬も社会資源の一つであり、盲導犬での歩行指導は視覚リハの一部です。協会職員のみなさん一人ひとりがその担い手であることを忘れずに、他関連団体と連携しながら視覚リハをさらに発展させてくださることを期待します。

TOPICS!

コロナ禍でも歩みを止めるな！ 中長期事業計画2年目がスタート

2021年6月に打ち出した中長期事業計画は、SDGsの17のゴールのうち協会の目標と一致する「人や国の不平等をなくそう」「住み続けられるまちづくりを」の項目に関連した協会の事業の道筋を示し、2030年までの行動計画をまとめたものです。策定から早くも2年目を迎えました。

2021年度はコロナ禍にありながら事業を止めることな

く、新たに36ユニットの盲導犬を送り出すことができました。持続可能な盲導犬育成体制へ向け、引き続き各訓練センターの環境整備を進めると同時に、訓練士の育成、ロービジョンの方々へのより一層の支援強化や、ユーザーが活動しやすい社会環境整備を進めていきます。SDGs 達成期限の2030年まであと8年、協会も実直に歩んでいきます。

第7回盲導犬育成ジャパンセミナー開催 8団体100人が参加して2つの講演と15の研究・報告

盲導犬育成の8団体で構成する認定NPO法人全国盲導犬施設連合会(理事長・井上幸彦)は、「第7回盲導犬育成ジャパンセミナー」を2022年2月8、9日に開催。

加盟団体や外部有識者が発表し、組織の枠を越えて問題意識を共有するのがセミナーの目的です。

今年はコロナ禍の状況をふまえ、日本盲導犬協会神奈川訓練センターでの講演とオンラインのハイブリット方式で開催。各育成施設の職員から盲導犬訓練、歩行指導、フォ

ローアップ等への取り組みなどについて様々な観点から研究発表や議論が行われました。

冒頭では、2019年に動物愛護管理法が改正され本年までに段階的に施行されることを受け、環境省担当者から詳細について講演をしていただきました。法律を学び理解することはもちろん、訓練センターで犬たちが快適に過ごし、楽しく訓練を進めるためにも、動物福祉の考え方は基盤になります。

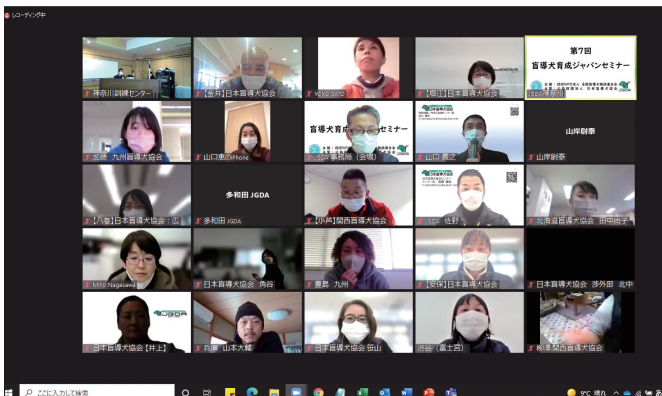
前号で紹介した麻布大学介在動物学研究室からは、日本盲導犬協会との共同研究について発表が行われました。

協会の仙台訓練センターからは、川本勝訓練士、柳彩芽訓練士が「ストレートライン強化～仙台訓練部の技術向上～」と題して、訓練の方針に注目した発表を行いました。新人訓練士だけでは、技術はあっても訓練の方針(やるべき訓練の方向)が違ってしまい、盲導犬として好ましい犬が育ちにくい。そこで「ストレートライン」という訓練を通じて、ベテラン訓練士が無意識に選択している方針(技能)を伝えようという斬新な取り組みでした。

コロナ禍でも、組織の枠を超えて盲導犬育成を推進していけるよう連携を強め、事業を継続していきます。



↑ 主管を務めた協会神奈川訓練センター会場の様子。警察庁交通局、厚生労働省担当者よりご挨拶をいただきました



↑ オンラインシステムを活用して8団体100人が参加、共同訓練の事例報告、ICT技術を併用した盲導犬歩行の検証、子犬の反応に注目した研究など、2つの講演と15の研究・報告が行われ、各団体での取り組みを共有しました。過去にはセミナーを機に業務連携が始まったケースもあります

盲導犬育成ジャパンセミナー 【講演】【研究・報告】【共同訓練事例発表】内容

講演

動物の愛護及び管理に関する法律の改正について／イヌの社会性発達とヒトとの共生

研究・報告

消防訓練時の犬の避難について／ピクトグラム表示の実施と結果／国際関係の取り組み／AGBN所属犬の育種価と期待育種価の状況報告／引退したユーザーの傾向と対策／ストレートライン強化／盲導犬ユーザーに対するクレームの分析／北海道内における医療との連携への取り組み／盲導犬歩行に携帯アプリを併用した歩行の検証とその成果・課題／2カ月齢の仔犬がみせる反応と成長／子育てGDIの共同訓練対応

共同訓練事例発表

北海道盲導犬協会／日本ライトハウス／九州盲導犬協会

北里メディカルドッグ 3代目のヨー 2代目モカを引き継いで活動スタート

学 校法人北里研究所北里大学メディカルセンターは、動物とのふれあいにより治療効果を高めることを目指すAAT（動物介在療法）を2014年から取り入れています。日本盲導犬協会はAATに適した稟性をもつ1代目ハイク、2代目モカに続き、3代目のヨーを事業協力として提供。2021年12月から活動を開始しました。

ヨーは、おっとりとした性格で患者のみなさんを和ませる一方、何ごとにも慎重な一面もあります。北里大学メディカルセンターでは犬の個性に合わせ、時間をかけてヨーとハンドラー（メディカルドッグの管理を担うスタッフ）との信頼関係を築いてきました。たとえば、最初のうちは短時間だけ病院へ連れて行き、慣れたら滞在時間を延ばす、メディカルドッグとしての正しい行動に導くために声かけや玩具によってモチベーションを上げ、目的を達成したら十分にほめる、などです。

協会は当初から犬への対応方法について助言やサポートを行っており、ハンドラーの看護師が協会の訓練センターへハンドリング研修に訪れる機会もありました。このよ

➡北里大学メディカルセンター佐藤之俊病院長（左）、3代目メディカルドッグのヨー（ゴールデン・レトリバー/雄/4歳）、ハンドラーの大真麻美看護師（右）



↑患者になでてもらおうヨー。患者とメディカルドッグが相互に安心できる状態であることがAATの重要なポイントの一つです

うな北里大学メディカルセンターのAATへの熱心な姿勢は導入当初から続くもので、2008年から導入を検討、2013年にはハンドラー、看護師、医師、他機関とのコーディネーター、事務職員などで構成する準備委員会が発足。国内でAATを導入する大学病院は少ないなか、画期的な取り組みでした。

以来、メディカルドッグとの関係構築や管理、患者ごとに病状を考慮したふれあいの場やタイミングの設定、患者への効果測定などを、委員会内で情報共有しながら実施しており、北里大学メディカルセンターのAATはこうした堅実な努力とチームワークによって支えられていると言えます。

AATを通して患者のみなさんに貢献できるよう、協会も引き続き協力を行っていきます。

ドイツから新犬種を導入し、盲導犬育成事業の継続を推進 訓練犬の確保、技術向上をめざす

コ ロナ禍で出産を調整したことで、今後訓練犬の不足が予想されるなか、2015年に視察で訪れたドイツの盲導犬育成関係者から新犬種を紹介されました。ラブラドル・レトリバーとスタンダード・プードルを掛け合わせた犬で、ドイツでは主流ではないものの盲導犬として活躍している犬種です。

訓練犬の確保のため、また、新たな犬種を訓練することで技術向上を目指すため、協会は2021年1月に2頭の購入手続きをしました。

その後、1歳半になるまでドイツでごく基本的な訓練がなされて、2022年2月9日に神奈川訓練センター

で本格的な訓練がスタートしました。

コロナ禍でも盲導犬育成事業の歩みを止めるわけにはいきません。様々な選択肢を模索していくなかで、新犬種の採用は一つのチャレンジです。



◀オット（左）とアキ。ともに2020年8月21日生まれの兄弟です。「慎重なところと社交的なところが入り混じっている印象で、人に愛想よく振る舞うことができつつ、場の雰囲気を感じ取る洞察力もあるようです。初めてハーネスをつけて訓練をしたとき、どちらも当たり前のように上手に歩いたので驚きました」と語るのはオット担当の森内訓練士（右）。海外から日本への移動による環境変化に犬も人もどう対応していくのか、また対応させていくのか、試行錯誤が続きます

特別
対談

AIスーツケースが描く 視覚障害者の近未来

視覚障害者の目となって歩行支援を行うスーツケース型ロボット、AIスーツケースの開発チームを率いる浅川智恵子氏。国際的な盲導犬訓練士として活動する多和田悟理事。そんな二人がAIスーツケースの現在と近未来について対談しました。AIスーツケースは盲導犬に取って代わるのでしょうか。

Chieko Asakawa

●あさかわ ちえこ

浅川 智恵子 工学博士

日本科学未来館館長 IBMフェロー
カーネギーメロン大学客員教授
1985年、日本アイ・ビー・エム(株)東京基礎研究所に入社。非視覚的ユーザー・インタフェースの研究・開発に従事。パソコン上の文字を音声で読み上げる世界初のソフト「ホームページ・リーダー」を開発。2009年からIBMの最高技術職であるIBMフェローに。2013年、紫綬褒章受章。現在は「AIスーツケース」と呼ばれる視覚障害者のためのロボットの研究開発に従事している



Sam Tawada

●たわだ さとる

多和田 悟 訓練士

公益財団法人日本盲導犬協会常任理事 青山学院大学文学部神学科を中退し、1974年 日本盲導犬協会小金井訓練センターに入所。富山県支所を経て1982年から財団法人西盲導犬協会訓練部長に。1987年、映画やドラマになったクイールを訓練。2004年から日本盲導犬協会付設盲導犬訓練士学校教務長、2012年協会理事に就任。国際盲導犬連盟のアセッサーとして世界各国の盲導犬施設を査察、国際舞台でも活躍している

AIスーツケースは「間違えない」ことが価値

多和田 (以降、多) : AIスーツケース(以降、スーツケース)の歩行体験の感想ですが、日本語の手引きというよりは英語のサイテッドガイド* に似ています。サイテッドガイドは見えない人、つまり使う側が主体です。手引きだと手引きする側が主体ですよ。ですから、主体が本人だという意味ではサイテッドガイドに近いと。驚きました。

浅川 (以降、浅) : ロボットは、ユーザー主体になれるということですか？

多 : そう思います。あえて批判を恐れずに言うと、盲導犬の場合、間違えることがバリューなのかな。盲導犬ユーザーは、犬が間違えるかもしれないと思って使っているわけです。間違えたときに失敗しましたで終わらせないために、犬も人もそこでお互いに作り上げていくものがあるんです。一方、スーツケースのバリューは間違えないというバリューです。選択肢が増えて選べるっていうのは、うれしいなあと思いました。

浅 : すごく重要なポイントだと思います。間違えることがバリューの盲導犬の場合、ユーザーは常に頭の中にメンタルマップ(歩く道筋のイメージ)を作って、街中や建物の中を歩きますよね。なので、少々間違えても自分で戻れます。組立て直すというか。ただ、デメリットとしては、私たちも

すべての場所でメンタルマップが作れるわけじゃないですよ。

多 : ええ。メンタルマップを作れない人もいます。加齢で作れなくなっていく状況もあります。そうなった時に困らないのがスーツケース。

浅 : メンタルマップが必要ないので、ただついていだけでいいですから。

多 : スーツケースの間違えないバリューっていうのは、メンタルマップをもてない人にとっては、大いなる救いですよ。だって、ちゃんと正しい指示ができなくなってきて盲導犬はもう諦めようっていう人に、じゃあ家にこもってなさいって言えないですもん。犬でも杖でもスーツケースでも人でもいいじゃないですか。行った先で自分の人生が豊かになれば。

あと、僕、名前付けようよって前に言いましたよね。1号、2号じゃだめ。誰誰くんって。今からあそこへ行くからね、右ですって言って右に曲がった、ああ偉いよ、お利口だねって言ってやりたいんですよ。



↑ AIスーツケースの開発にあたりIBM社から多和田理事にアプローチがあり、二人が会うのは3回目。AIスーツケースの現状と近未来を中心に、盲導犬や白杖などの歩行支援、それぞれの社会的意義をめぐって熱い意見が交換されました

花の香り、風吹いて… 楽しい部分に脳を使える

浅: スーツケースを持っていると視覚障害者であることが分からない。

そのことをどうお考えですかってよく聞かれます。

好む好まざるに関わらず、今は盲導犬か白杖を持つしかない、じゃないと出かけられないから。そういうシンボルではない、新しいテクノロジーを語るのにはある程度、技術的な目処がついてからかなって思っちゃうんです。この人は夢物語を語っているんじゃないかと思われたくない、と。

多: 誰かが夢物語を語っていることが噂にでも見えない、見えにくい人の耳に入れば、希望をもてます。盲導犬に対する期待もある種、かつては夢物語だったんですから。広く考えればいいわけです。スーツケースがあると楽しめたり自由になれる時間が増えたら。スーツケースの間違えないバリューは、自分の脳に余裕をもたらしてくれます。そしたら花の香りがしてきた、風がこっちから吹いてきた、今日はお日さんが暖かったとか、楽しいという部分に脳を使えるんですよ。

浅: 風吹いてるなっていいですね。

多様性が当たり前な 未来への足がかり

浅: 盲導犬、介助犬、聴導犬については日本のほぼすべての人が知ってます

→「時には人から注目されずに空港の中を移動したり、ショッピングしたり。そんなことが、スーツケースと一緒にいると実現できるかもしれません」と浅川氏、日本科学未来館にて

よね。

多: この三つの補助犬はみんな知ってますね。日本盲導犬協会が創立されて55年ですから周知にはざっと50年くらいかかったんじゃないでしょうか。

浅: スーツケースは半世紀かけてられないですね。テクノロジーが先に行ってしまう。多様性が当たり前の世界をつくりたいと思っているんですが、スーツケースはその大きな一つの取っかかりでもあるんです。こういう新しいテクノロジーとそれを巡る思いを、初めて聞く方々が自然に受け入れられるように伝え方を考えているのですが、まだちょっと浮かばない。でも考えてみます。

多: このワクワク感は人に伝えたい。なんだかワクワクしてる。

浅: ありがとうございます。社会とかこういう仕組みとか、人々の理解とか難しいですね。こういった技術を社会に普及するなかで一緒に語っていただければ楽しいですね。

多: でも待ってちゃできない。動かないとダメですよ。

浅: 今日をきっかけに、既に始められることは何かって考えていきます。



テクノロジーが生む 「目立たない」という選択

多: トーマス・キャロルというアメリカ人でカトリックの司祭がいたんですが、失明による20の喪失ということを書き述べているんです。その一つに「目立たない存在であること」の喪失についてあります。

浅: あー、いい言葉ですね。今後新しいテクノロジーが出てきたことによって、たとえばショッピングをしている時や空港の中などある場面で、周囲と溶け込みながら時間を過ごすことができれば、その目立つことから解放されるわけですよ。いつか全部の場面でそうなるかもしれない。

多: 見える人が「私と同じ格好のスーツケース持ってる」ってなった時に、まさにシームレスに受け入れられていくのかな。

浅: なるべくかっこよく歩きたいんですよ。周りに心配をかけないために。私は困ってないんですけど、周りのためにより緊張して歩きたいな。だからそこにスーツケースがあってシュッって行ければ、誰も気にしないですよ。スーツケースは視力を使って歩くことをシミュレーションすることで、社会に自然に溶け込める。見えるか見えないかが問題じゃなくて。歩き方が見えている人に近くなるので社会が自然に受け入れるっていうか、周りの人が見えていて不安に感じない。技術的に私たちが目指しているのはそこかもしれません。

多: 賛同します。期待しています。

AIスーツケースって何?

視覚障害者用のサポート機器です。画像認識、測位、触覚インターフェイスなどのセンサーやAI技術を集結。周りの状況を取得し、歩行者や障害物の情報を音声で伝え、ドアや階段、エレベーターなど目的地に誘導します。一般社団法人次世代移動支援技術開発コンソーシアムが開発。協会は賛助会員として開発に協力しています



←2020年、AIスーツケースの実証実験風景。多和田理事はアドバイザーとして参加し、自ら体験歩行を行いました



スタートライン

Start Line

みなさんのご支援に支えられて新しいパートナーと出会った共同訓練卒業生たち。喜びに満ち、まさにスタートラインに立ったところ

2022年
2月までの
共同訓練
卒業生

●各ユーザーの紹介項目

ユーザー名・居住地（盲導犬歴）
盲導犬名（雄♂/雌♀） 犬種

- ①共同訓練期間
②パピーウォーカー名

●犬種記号

LR：ラブラドル・レトリバー
GR：ゴールデン・レトリバー



仙台訓練センター



たくさんの人に見守られながら アネラとの関係を築いていきます

60歳で定年退職をした千葉さんは、再雇用で2年前からは週4日勤務。現在はアネラと電車を乗り継いで約2時間かけて通勤しています。

通勤中は、いつも周りの人が声をかけてくれて、親切にサポートしてくれます。以前、電車が5分ほど遅延してしまい、乗換予定の電車に間に合わなくなりそうだった時は、駅員が乗換先の電車まで誘導してくれたうえ、電車も千葉さんが到着するまで発車を待ってくれました。1頭目フクの引退後には白杖で通勤していた時も「犬はどうしたの？」と心配してくれる人もいました。

「たくさんの人に見守られている」と安心して職場に通っています。

千葉さんは30代後半頃から見えづらさを感じ、14年前にはほぼ見えなくなりました。白杖やタクシー、同行援護などを頼りに生活をしていましたが、白杖での通勤は電柱にぶつかるのは日常茶飯事。他人の家に間違えて入ってしまったこともあり、多くの人に助けってもらって何とか通勤ができていた状態でした。

当事者の集まりで知り合った盲導犬ユーザーから勧められ、「まずは試してみよう」と宿泊して盲導犬歩行を体験できるプログラムに参加。「歩けるっていいな」と普通に歩いていた昔を思い

← 仕事中は千葉さんの机の隣にアネラ専用のケージを設置。排泄場所の確保など職場も受け入れに協力的です。最初は緊張して眠れなかったアネラも今では熟睡。座席表にはアネラの名前も記され、すっかり溶け込んでいます



千葉 和也さん

岩手県一関市(2頭目)

アネラ (♀) LR

- ① 2021.12.19 ~ 2022.1.8
② 西方 一枝さん

↑ 訓練当初はアネラ主導で歩いてしまうことがありました。関係性の構築のために指示語であるヒールの練習を重点的に行い、千葉さんの指示でアネラが動けるよう努めました

出しました。その場で「盲導犬と歩きたい」と思い、家族に相談。「お父さんが良いなら」と賛成してくれました。

フクが引退してからの白杖歩行ではフクと歩いていた頃の倍の時間がかかってしまうこともありました。2頭目のアネラと出会うまで「盲導犬とまた歩きたい」という思いを募らせながら毎日をご過ごしていました。

アネラとの初対面のとき、アネラは走り回って大興奮。テンションが高



ぎてびっくりして「大丈夫かな」と思いました。しかし、一緒に歩いてみると、角もカーブもしっかり止まって細かいところまで教えてくれるうえ、力強くスピード感があり、何よりきちんと道路の左側に寄って歩いてくれました。アネラを「盲導犬の鏡だと感じた」と振り返ります。

通勤路の訓練では、改札やエスカレーター、車両までの距離など周辺の環境や空間を自分自身が理解できていなかったことに気付かされました。通い慣れていたため、指示がなくともフクが動いてくれていたのです。現在は、アネラも通勤路に慣れ、千葉さんも音声ガイダンスを聞く、歩数を数えるなどして空間を意識しながら歩けるようになりました。またハーネスを通してアネラが教えてくれる合図もきちんと察知できるようになり、「息が合ってきた」と実感しています。

アネラとはまだまだ発展途上。危険な歩行にならないように関係性を築いていき、さらに良い状態で歩くことを目指しています。「川の流れる音や子供の声などから、風景を感じながら歩けるようになりたい」と心を弾ませる千葉さん。アネラと初めて歩く道でも余裕を持って安全に歩けるよう、日々の通勤路をしっかりと歩んでいきたいと語ります。



↑甘えん坊のアネラを家族全員がかわいがっています。帰宅した家族にアネラが駆け寄ることもあります。外での歩行に影響しないよう、家の中でも「ウェイト」「オーケー」など千葉さんの指示を待って行動させるよう心がけています

島根あさひ訓練センター

酒井 理絵さん
松山市(1頭目)

マーニー (♀) LR

- ① 2021.12.1~12.24
- ② 鈴木 美枝子さん

現在、マーニーとの主な外出は家から職場までの往復ですが、マーニーのおかげで、白杖歩行時には間に合わないと言っていた電車に乗れるようになりました。家では子供が帰ってくると、かまってもらいたくてマーニーは大喜び。家族みんな仲良しで、特にお父さんはマーニーにメロメロ、私もびっくりです。コロナが落ち着いたら、友達と食事に出かけたり、コンサートに行ったり、一緒にお出かける日を楽しみにしています。



神奈川訓練センター

ウィルナとの初歩行は、長い間一緒に歩いているような錯覚に。相性はバッチリ。パソコンをパチパチしていると、後ろから犬パンチ！私の脇のところに顔を突っ込んで、かまってアピール！そんな甘えん坊のウィルナだけど、最適な歩行を提供してくれます。これから約8年、思いつくままに、のんびりと季節の感じられる場所や行ったことのない都道府県に行きたいなー、行こう！ウィルナ！Let's go !!

赤上 到さん
茨城県つくば市(3頭目)

アトラス (♂) LR

- ① 2021.12.3~12.16
- ② 豊田 良太さん



末松 まい子さん
大分市(4頭目)

ウィルナ (♀) GR

- ① 2021.12.6~12.16
- ② 若林 聡さん

5kmの散歩コースをアトラスと歩くのが日課です。最初はぎこちなさがありましたが、今では足並みも揃って良いペースで歩けるようになりました。アトラスは明るい性格で、良くフリフリしている尻尾は家で飼っている猫たちにとっていいオモチャ。電車やバス、飛行機などでの旅行はしてきたけど、フェリーはまだ乗ったことがないので、アトラスと一緒にフェリー初体験を兼ねて九州に遊びに行こうと計画中です。



神奈川訓練センター

クリスマスイブに2頭目トトワとの共同訓練が終了しました。コロナの感染拡大で、友人との飲食などすべての予定がキャンセルになってしまいましたが、トトワとは日々の散歩、週2日の合気道の稽古、月1回の動物病院へ一緒に出かけています。トトワのことを、トト、トトト、トットトなどと呼んでしまうことがあったり、排泄のタイミングがつかみ切れず少し苦労していますが、とてもかわいいパートナーです。



鹿嶋 明さん
東京都足立区
(2頭目)

トトワ (♂) LR
① 2021.12.6 ~ 12.24
② 飯野 悦光さん



中澤 隆さん
東京都西東京市(2頭目)
シュクレ (♀) LR
① 2022.1.24 ~ 2.4
② 小田切 清人さん

シュクレに会う前に訓練士さんから「シュクレは人見知りで…」と伝えられていたのですが、会った途端にお腹を見せて寝転がるし、抱きついてくるし、驚きました。家でのシュクレは遊ぶのが大好きなかまってちゃん、おてんば娘ですが、ハーネスをつけると、落ち着いて仕事をきっちりしてくれる頼もしいパートナーです。肌が乾燥しやすく毎日肉球にクリームを塗る事が必要で、手のかかるかわいいお嬢様です。

高橋 政寿さん
埼玉県狭山市
(2頭目)
ランス (♀) GR
① 2022.2.7 ~ 2.18
② 磯谷 いづるさん



テレワーク勤務のため、ランスとは自宅周辺をよく歩きます。歩行中、知らない人に愛嬌を振りまくなど少しずつランスらしさが現れ、近所ではすっかり人気者。一方で人が多いところでは早足になるなど繊細な一面も。帰宅後はほめてほしくて、お腹を出して「なでて〜！」と催促されます。コロナが落ち着いたら、通勤で気持ち良く歩行することが目標。実家のある新潟などへの旅行も楽しみです。ゆっくりランスとの絆を深め、楽しく歩いていきたいです。



アキバ AKIBA FUCOIDAN
アキバ フコイダン

秋葉薬品は
日本盲導犬協会を応援しています。

秋葉薬品株式会社
tel.03-5577-5645
akibayakuhin.com/fucoidan/






リニューアルした「声かけパンフ」の配布にご協力ください！！

盲導犬プロジェクト

配布のご協力は、右のQRコードからアクセスまたは「盲導犬サポートSHOP」をご覧ください。





一般社団法人
盲導犬総合支援センター
みなさまからの応援は、補助犬育成及び障がい者の社会参加の支援活動に役立ちます。

盲導犬総合支援センター
https://goguidedogs.jp/
盲導犬サポートSHOP
https://www.gomoudouken.net/

COLUMN



COLUMN

1 災害に備えて 見えない、見えにくい人向け
「ヘリコプター救助」解説動画を公開

災害時に逃げ遅れるなどして孤立してしまった場合を想定して、島根あさひ訓練センターは地域の消防航空隊と共に、ヘリコプターによる災害時の視覚障害者と盲導犬の救助活動に取り組んできました。その成果の一つとして、見えない、見えにくい方々に実際の救助がどんなものなのか知っておいてもらいたいと、音声ガイド付き

の動画を制作、2月に協会公式YouTubeチャンネルで公開しました。

視覚障害のある方のサポート方法も学んだうえで訓練に挑んだ消防航空隊のみなさんの対応にも注目です。こうした活動は、今全国の消防隊にも広がっています。



大きい音と風が吹きますので会話もできません



ワイヤーを引き上げる

↓視覚障害者用音声ガイド付き動画「災害時の視覚障害者および盲導犬救助～ヘリコプターによる救助方法の解説」のご視聴は、下記QRコードから



↑ヘリコプターの騒音や救助隊との会話、ワイヤーで吊り上げられる様子など、実際の訓練時の映像が使用されていて臨場感があります。人と犬が装着する救助用具の説明や救助時の注意点など、いざという時のためにおきたい内容です（写真は協会提供の解説動画の一部です）



COLUMN

2 新たに3人の訓練士が誕生しました！

新人の盲導犬訓練士3人を紹介します。3人は2019年に盲導犬訓練士学校に入学、神奈川訓練センターで共に学び、2021年4月からは準訓練士として働きながら学び

続け、2022年3月に正式な盲導犬訓練士に認定されました。励まし合った3年間に胸に、春からそれぞれの訓練センターで新たな一歩を踏み出します。

(左) 杉浦愛理訓練士 / 静岡県出身 / 22歳 「小学生の頃からテニスなどに親しみ、ケガも多い日々の中でリハビリテーションに興味をもちました。その後、老人ホームでのボランティア活動やパピーウォーカーを経験して福祉の仕事にやりがいを感じ、盲導犬訓練士を志すように。ポジティブ思考を取り柄に、明るく元気に頑張っていきます。たくさんの方々とお話できることを楽しみにしています」

(中央) 上田桃子訓練士 / 千葉県出身 / 25歳 「大学で動物について学んでトレーニングや飼育を経験、研究室では動物を介した子供たちへの教育やセラピーを勉強しました。アルバイトでは身体障害者のヘルパーを経験。動物と障害者福祉の両方に関わりたくて補助犬の訓練士を目指すように。富士ハーネスでのインターン時に協会で働きたい思いを強くしました。みなさんに覚えてもらえるよう頑張ります」

(右) 吉澤わか葉訓練士 / 京都府出身 / 28歳 「小学生の頃に映画『クイール』を観て訓練士の仕事に憧れを抱きました。大型犬に触れたこともなかった私にとって、訓練士学校での日々は刺激と学びの連続でした。大卒時に就職した有料老人ホームでは、イベント企画や相談業務を担当、人生の大先輩である入居者や家族の方々に接した経験は今に活かしています。ユーザーの方々などみなさまに信頼してもらえるよう頑張ります」

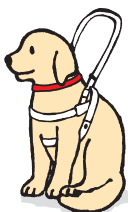


無理なく、続けられる

ナチュラリープラス®

The Global Healthcare Company

私たちは盲導犬の育成支援・普及活動を通じ、皆さまの健やかな暮らしを応援しています。



株式会社 ナチュラリープラス 〒106-6035 東京都港区六本木1-6-1 泉ガーデンタワー3F
TEL 03-6230-3311 FAX 03-6230-3011 URL <http://www.naturally-plus.com>

intage
Know today, Power tomorrow

株式会社インテージでは、アンケートモニターの皆さまの善意により、謝礼の一部を日本盲導犬協会に寄付させていただいております。

株式会社インテージ
<http://www.intage.co.jp/>



キューモニター募集
<https://www.cue-monitor.jp/>

盲導犬育成を支える

ボランティア
LIFE人とのコミュニケーションが
大好きな引退犬モネ
たくさんのことに気づかされて富士ハーネス
引退犬飼育ボランティア

●鈴木さん一家●(静岡県浜松市)

知 人の盲導犬ユーザーから盲導犬には引退があると聞き、引退後の行き先が気になり調べたという鈴木美枝子さん。その時に初めて引退犬を飼育するボランティアの存在を知りました。犬好きで犬を飼いたい思いが募っていたことや子供の小学校入学をきっかけにボランティア登録。子供たちも「やったー、犬が来るんだ！」と大喜びで、犬の飼育経験はほぼゼロでしたがモネを受け入れることになりました。

最 初は対応に戸惑った美枝子さんに、次第に自分が産んだ子のような感覚が芽生えます。モネが子供たちに交じって甘えてくることもあり「モネ自身も子供の一人と思ってるかも」。今ではすっかり家族の一員です。心がけているのは、人が大好きなモネにできるだけほめられる機会を作ってあげること。盲導犬として「グッド」とたくさん言われてきたモネは「ほめられるのが本当に大好きなんです。だから引退した今も、グッド～！と言ってあげたくて」

モ ネと歩いていると、よく声をかけられます。「どうやら私じゃなくてモネに話しかけてるんですよ。モネをなでながら飼っていた犬の思い出を語ったり、かつての犬に話しかけているようだったり」。そんな時、モネはじっとして「これで良いんだよね」とでも言うように美枝子さんを見上げるそう。人に話しかけられるのが大好きなモネは「みなさんの癒やしになっています」

あ る日、モネが1台の車にずっと尻尾を振っていることがありました。その車から女性が降りてきて「モネ？」と尋ねてきました。声をかけてきたのはモネのパートナーであった前ユーザーの家族で、乗車したことのある車をモネは覚えていたのです。この出会いが縁となり、前ユーザーとモネが会うことに。再会の日、印象的だったのは、前ユーザーの現パートナーである

↑モネの世話は鈴木美枝子さん(左下)が中心、なでたり遊んだりするのは中学3年の晶くん(右上)と小学6年の朋佳ちゃん(右下)、夫の普之さんは庭で「ワンツー」と声をかけ排泄させるなど役割分担。散歩帰りには隣に住む祖父母の家に立ち寄ることも

美 枝子さんは当初、ユーザーなどの別れがある引退犬をかわいそうと感じていましたが、やがて「いろんな人との出会いがあって、幸せなんだ。様々な経験を積んできたことがモネの強みなんだ」と思うようになります。「今このときを生きているモネの姿から、人間は考えすぎてしまうことがあるけど、もっとシンプルでいいんだなと気づかされました」

先 日鈴木さん宅を訪問した協会職員の帰り際に「行かないよ」というように後ずさりしたモネ。「連れて行かないよ、ここがモネのおうち」。職員のその言葉に鈴木さんも気持ちを新たにしました。

◀「ほめられる場面をもっと作ってあげたい」と、子供たちの登校に合わせてモネと散歩するように。児童などたくさんの人に話しかけられてモネはご機嫌です

↓「コロナ禍でもモネと旅行に！」と岐阜の旅館へ。季節ごとにかわいいフォトコーナーが設けられていて、パシャリ。移りゆく四季をモネが楽しめるよう「また連れて行きたいな」



心がふれあう

Heart to Heart

視覚障害や盲導犬について理解を深め
盲導犬ユーザーが生き生きと
安心して暮らせる社会を目指して
心のバリアフリーを広げる活動を紹介します

メガネのパリミキが新企画 静岡各店舗でロービジョン商品体験会を開催



◆ロービジョン商品体験会の会場
で拡大読書器を紹介するパリ
ミキスタッフ(右)と協会職員(中
央)。焼津店にて



は長年にわたり人々の見えにくさを支えてきたパリミキならではの催事といえます。

●見えにくさに悩む ●地域の方々を支えたい

さらに多くの方々に安心して体験会へ来ていただくにはどうしたら良いのか。静岡県内の店舗研修を担当する焼津店の岡村敦司さんは「お客様がどの店舗を訪れても質の高い対応を受けられるようにしたい」と語ります。パリミキは静岡県内の店舗向けにロービジョンの勉強会を実施。3月に掛川店で初開催となりました。岡村さんは「今後も店舗間で切磋琢磨してレベルアップを図り、見えにくさに悩む地域の方々を皆で支えていきたい」と意欲的です。

パリミキの新たな企画である「ロービジョン商品体験会」の開催は今後も続きます。協会は今後もパリミキへの協力を続け、ロービジョンの方々が住いの近くの店舗で相談を受けられるよう尽力していきたいと考えています。

↓焼津店の岡村さん(右)は眼科の視能訓練士とも連携して、静岡県内のパリミキで社内向けロービジョン勉強会も担当しています

株式会社パリミキは2021年10月から静岡県内各店舗で「ロービジョン商品体験会」を開催しています。ロービジョン (low vision、日常生活に支障をきたす見えにくさ) の方々をサポートする視覚補助機器や遮光メガネなどの商品を揃えて来店者に個別対応するイベントで、富士店、ベイドリーム清水店、大仁店、焼津店、掛川店と開催場所を移しながらほぼ月1回のペースで約1週間ずつ実施。協会は事業協力者として会場での一日視覚リハ相談や盲導犬実演を行っています。

●大切なのは ●見えにくさへの共感

体験会では個々の見えにくさに合わせた提案を重視しています。たとえば、片眼は良く見えるが他方の眼は視界が歪んでいるため見えにくくて困っているという来店者に対し、パリミキスタッフから「歪む側にだ

け遮蔽レンズを入れたメガネが良いのでは」と提案。大変喜ばれ、後日「見えにくさを分かってもらえたこと、共感してもらえたことが何よりうれしかった」と声が届いたそうです。

●発案から4か月の ●スピード開催

体験会の発案者はパリミキ社員で視覚障害当事者の神田信さんです(会報誌103号表紙とp4に記事掲載)。協会の富士ハーネスが自治体と連携して視覚障害者リハビリテーション相談会を開いていると知った神田さんは「地域に根ざしたパリミキが、協会と連携して視覚障害者の困りごとに一役買えれば」と、2021年6月にこのイベントを協会へ提案。急ピッチで準備が進み、10月には初回開催となりました。パリミキのメガネ事業への参入は1930年。体験会



2022年度 事業計画・収支予算

盲導犬育成事業

① 視覚障害者に対する歩行指導及び

盲導犬貸与

- ・35ユニットの盲導犬を育成

② 盲導犬の認定等

- ・海外からの旅行者に「期間限定証明書」を発行

③ 犬の飼育及び訓練

- ・候補犬100頭以上を訓練する
- ・100頭以上の子犬を安定確保する
- ・健康理由・秉性理由によるキャリアチェンジ犬の減少
- ・100頭をパピーウォーカー(PW)に委託、飼育の環境整備を継続
- ・14年目の島根あさひ盲導犬パピープログラムは4頭で実施
- ・盲導犬の引退は26頭。富士ハーネス引退犬棟及び引退犬飼育ボランティアと連携し、引退犬のQOL向上に努める

- ・ケネル業務の質の向上と効率化
- ・大学獣医科病院・専門医における医療協力体制の拡充や緊急医療体制の強化

④ 盲導犬ユーザーに対する

フォローアップ(FU)

- ・共同訓練直後～1年以内のアフターケア期間の充実をはかり、宿泊型FUとして拠点毎に盲導犬新ユニット出発式を実施
- ・盲導犬歩行状況等情報に基づき、歩行安全性確保のために各訓練センターあるいは現地での問題解決FUを行う
- ・犬年齢6歳時を対象に集中型FUの定着

⑤ 盲導犬訓練技術の向上

- ・訓練技術の強化、訓練期間短縮と成功率向上
- ・基礎訓練・共同訓練技術の向上をはかるため、技術評価、スキルマップを活用
- ・共同訓練工程のマッチング適正率向上
- ・盲導犬歩行に関する研究、歩行支援技術の研究にも取り組み、補助具開発を継続

⑥ 犬舎・施設改修整備

- ・神奈川訓練センターの犬舎棟改築に着手
- ・広島訓練センターの新築構想、仙台訓練センター改築構想を長期的な視点で検討

盲導犬歩行指導員等育成事業

① 盲導犬訓練士の養成

- ・准訓練士(研修生)に計画的な指導
- ・有期契約職員として訓練士学校の学生を4名採用し、OJTで育成

② 盲導犬歩行指導員の養成

③ 盲導犬歩行指導力のレベルアップ

- ・白杖歩行指導員養成プログラムの実施

調査研究事業

① 盲導犬の人工繁殖・育種技術の研究継続

② 大学との研究協力・連携

視覚障害支援事業

① 盲導犬歩行についての理解促進

- ・視覚障害リハビリテーション団体、視覚支援学校、当事者団体で盲導犬体験歩行会実施

- ・盲導犬体験歩行会を80回、盲導犬説明会を30回開催

② ユーザーコミュニケーション

- ・ユーザーへの聞き取りで課題の早期発見につとめ、訓練部によるFU実施へ
- ・災害時やコロナ禍においてユーザーの安否確認や生活状況聞き取り調査を行う
- ・盲導犬6歳時コミュニケーション会を開催とオンラインで実施

③ 視覚障害者在宅生活訓練

- ・全拠点で1,300コマの在宅訓練を実施

④ 視覚障害リハビリテーション相談

⑤ 短期リハビリテーション

- ・スマイルワン仙台で5回、神奈川訓練センターで2回、富士ハーネスで1回開催

⑥ 視覚障害児キャンプ

- ・スマイルワン仙台で開催

⑦ 関係団体との連携

- ・当事者・支援者向け、行政職員向けの動画配信やオンラインセミナー開催により理解促進をはかる

⑧ 各種研修会への参加

⑨ 生活講習会の開催

⑩ 『パートナース』を年4回発行

広報・普及推進事業

① 事業者を対象とした盲導犬の受け入れ等理解促進活動

- ・小売店・飲食店・宿泊施設・医療機関・交通事業者向けにセミナーを実施
- ・ユーザー在住地の首長訪問で住みやすい街づくりの協力を依頼

- ・ユーザーから訴えのあった受け入れ拒否事例に対し問題解決のアドボカシー活動を行う

② 教育機関への盲導犬等の理解促進活動

- ・全国の小中学校を訪問し盲導犬キャラバンを実施
- ・教科書出版社へ積極的な情報提供や働きかけを行う

③ 一般市民への盲導犬等の理解促進活動

- ・大型商業施設の協力で盲導犬デモンストラーションやパネル展示などを実施
- ・富士ハーネスでは個人・団体の見学者を積極的に受け入れ、盲導犬と視覚障害への理解を促進
- ・コロナ禍での盲導犬や視覚障害への理解促進方法としてZOOMやYouTubeなどを採用

- ・街頭に立ち、盲導犬事業への理解を訴求
- ・全国の病院・福祉施設等を訪問し、犬と

●2022年度予算

(単位:円)

科目	2022年度	前年度
1. 経常増減の部		
(1) 経常収益		
基本財産等運用益	9,000,000	5,700,000
受取会費	247,000,000	243,000,000
事業収益	33,100,000	34,700,000
受取補助金等	32,470,000	25,780,000
受取寄付金	918,230,000	770,420,000
雑収益	200,000	400,000
経常収益計	1,240,000,000	1,080,000,000
(2) 経常費用		
盲導犬育成事業費	469,570,000	443,110,000
盲導犬歩行指導員等育成事業費	6,200,000	12,920,000
調査研究事業費	23,250,000	24,310,000
視覚障害支援事業費	75,580,000	66,830,000
広報・普及推進事業費	200,270,000	213,080,000
国際事業	6,600,000	1,520,000
訓練センター管理費	146,920,000	133,700,000
事業共通費(減価償却費等)	72,000,000	56,200,000
公益目的事業費計	1,000,390,000	951,670,000
法人管理費	239,610,000	128,330,000
経常費用計	1,240,000,000	1,080,000,000
当期経常増減額	0	0
2. 固定資産等投資活動増減の部		
固定資産等投資活動収入	0	0
固定資産等投資活動支出	503,470,000	203,500,000
固定資産等投資活動増減額	△503,470,000	△203,500,000
当期増減差額	△503,470,000	△203,500,000

のふれあいを通じた患者や入所者への動物介在活動を行う

- ・第29回盲導犬育成チャリティゴルフ大会を開催

④ 広報事業

- ・マスメディアでの広報活動
- ・会報誌『盲導犬くらぶ』を年4回各5万部発行・発送
- ・刊行物の企画・管理～子供向け資料「盲導犬といつも一緒」改訂版作成、企業研修誘致用パンフレットの作成
- ・ホームページ・電子コンテンツ運営～ニーズに合ったホームページコンテンツの拡充。動画他SNSの活用で情報発信力を強化
- ・情報管理の徹底とリスク管理体制の強化

関係団体協力事業

① 国内各種団体との連携

② 国際的な協力関係の強化

- ・国際盲導犬連盟(IGDF)に理事及びアセッサーを派遣し貢献する
- ・各種交流を通して国際的な協力関係を強化する

その他事業

① 井上ビジョンの展開

- ・東京大学盲導犬歩行学連携講座において各種研究活動を行う

② AC ジャパンによる支援キャンペーン

③ 人材育成

④ 災害支援

- ・日本盲人福祉委員会の東日本大震災被災者調査や大災害時の視覚障害者支援事業に協力

⑤ 協会ICTインフラの整備と活用

生まれました

2022.1/3 誕生

オス1頭
メス5頭
父犬ウイングダム(LR)×
母犬ツグミ(LR)



オス1頭
メス4頭
父犬トーマス(LR)×
母犬ダナ(LR)



2022.2/5 誕生

オス1頭
メス3頭
父犬カーロ(LR)×
母犬クウ(LR)



2022.2/2 誕生

2022.1/16 誕生

オス2頭
父犬ルバーブ(LR)×
母犬チェス(LR)



みなさんに 支えられて

12月11日～3月10日

犬種記号

LR/ラブラドル・レトリバー
GR/ゴールデン・レトリバー

引退しました

犬名・性別	ユーザー名	ボランティア名	引退日
ナナ♀	千葉 信野さん	高橋 美晴さん	2021.9.7
フク♂	千葉 和也さん	-	2021.12.12
トニー♂	木村 昭子さん	調整中	2021.12.24
ホリー♀	山口 佳信さん	-	2021.12.27
ポール♂	利根川 かおるさん	宮下 綾子さん	2022.1.9
デネブ♂	中澤 隆さん	畑中 祐二さん	2022.1.24
ヴェント♂	三村 孝さん	調整中	2022.1.27
フィル♂	小林 保夫さん	小林 久恵さん	2022.1.28
ヨック♂	高橋 政寿さん	調整中	2022.2.7
アスク♂	岩間 幸子さん	綱島 日出美さん	2022.2.14
ディーオ♂	今岡 秀子さん	河野 鉄平さん	2022.2.28
ラグ♂	伊藤 一彦さん	調整中	2022.2.28
ベス♀	大城 喜和子さん	調整中	2022.3.7

亡くなりました

犬名・性別	ユーザー名	ボランティア名	死亡日
ダイヤ♀	浅野 千鶴子さん	-	2021.11.10
キーパー♂	原田 一二三さん 原田 栄子さん	内藤 誠一さん	2021.12.16
オゼット♀	豊田 悠子さん	木下 明さん	2021.12.17
ホワイト♀	佐藤 裕子さん	青木 こずえさん	2021.12.22
オードリー♀	繁殖引退犬	河野 俊彦さん	2021.12.22
スタフィー♀	本間 義章さん	本間 一博さん	2021.12.25
ドロワ♀	山本 誠さん	生田 淳子さん	2021.12.25
ウェル♀	大津 かほるさん	石井 淳一さん	2022.1.12
オグ♀	上條 きみ子さん	堀内 保夫さん	2022.1.31
ネス♂	原田 宗雄さん	-	2022.1.31
ソフィー♀	鷹谷 日奈子さん	三塚 尚義さん	2022.2.2
キャンディー♀	高橋 静枝さん	笹森 純さん	2022.2.21
ミリオン♂	笹本 克考さん	榊 ちはるさん	2022.2.27

委託しました

父犬トーマス(LR)×母犬ヴィセ(LR)		父犬ルバーブ(LR)×母犬サラ(LR)	
イル♂	川畑 広子さん	ジュエル♀	向田 祥子さん
イズ♀	土江 久美子さん	ジュロ♂	齋藤 浩美さん
アイル♀	田口 秀樹さん	ジョン♂	福島 登紀子さん
イネス♀	谷口 祐己さん	ジル♀	齋藤 正明さん
インディー♂	幾原 武志さん	ジュニー♀	古澤 真由美さん
父犬ヴィンス(LR)×母犬ウパ(LR)		ジョア♀	本宮 透雄さん
リリィ♀	石原 圭介さん	ジョナサン♂	甲田 健さん
リアン♂	高梨 哲也さん	ジフィー♂	飯野 悦光さん
父犬ウイングダム(LR)×母犬ルーティ(LR)		父犬グリーン(北海道盲)(LR)× 母犬グリ(LR)	
オットィ♀	高橋 稔さん	カドル♂	丹羽 啓子さん
オメガ♂	高橋 俊也さん	キーン♂	ギユナイ 夏枝さん
父犬トーマス(LR)×母犬ウェルシー(LR)		クーザ♂	川喜田 一広さん
ミント♀	川幡 佳子さん	父犬ウイングダム(LR)×母犬ツグミ(LR)	
メイジー♀	吉田 薫さん	ノイ♀	三浦 智香子さん
マルシェ♀	松田 教子さん	ネージュ♀	望月 朋子さん
マイティ♂	大藪 治夫さん	ナーシャ♀	佐藤 昇一さん
マオリ♂	丸橋 剛さん	ナディ♀	水野 智秋さん
マヒナ♀	加内 朋子さん	ニノン♀	山本 紘希さん
メル♀	柏倉 智明さん	ネオ♂	松永 往伯さん

盲導犬育成状況

合計頭数・・・712頭(2022年3月23日現在)

委託前パピー	8頭	繁殖犬	49頭
パピー	85頭	PR犬	19頭
訓練犬	73頭	引退犬	172頭
盲導犬	247頭	繁殖引退犬	59頭

みなさんからいただいた「声」を紹介する

ハーネスひろば

協会のご支援者や
ボランティアの方から
届いたメッセージを紹介します



105号の『盲導犬くらぶ』でビルボの訃報を知り、びっくりして泣いてしまいました。私が盲導犬事業を支援するきっかけとなったのはPR犬ビルボとの出会いがあったからです。昔、職場の人間関係に悩んでいた私を、夫が気分転換にと買い物に誘ってくれたことがありました。その時に、仙台駅で広報活動をしていた黒いラブラドル・レトリバーのビルボに出会いました。たった数分のふれあいでしたが、ビルボの優しいまなざしに本当に癒やされました。優しくて温かくて、とてもうれしい出会いでした。ビルボのぬくもりを忘れることはなく、その後も『盲導犬くらぶ』が届く度にビルボの名前を探していました。ビルボとの出会いを大切に、これからも日本盲導犬協会、そして盲導犬に関わる方々を応援していきたいと思えます。

山形県 渡辺さんより

昨年の暮れのことです。神奈川訓練センターで、シャンプーを終えてさっぱりした帰り道、普段と違う環境にも、通り慣れたルートという慢心から広いせせらぎ公園で方向を見失い、久々の遭難…。さあ困ったぞ。さて、援助依頼をするか。人の気配を探っていると、横から「何か困っていますか?」「はい。仲町台駅に行く方向がわからなくて困っています。」と、かわいらしく素直な声に、素直に反応した私。声の主は、近隣の中学2年生の女子二人。「ちょうど駅に行くので、一緒にいかがですか?」これは女神様が天使の声か…?感激に震えながら、お言葉に甘えることに。公園から幹線道路に出て、お友達が一人加わって、前に一人、後ろに二人がついて、アイジュを気にしつつ、自転車の接近や駐車場の出入り口の歩道の傾斜、主なランド

マークなど、要所の情報提供も完璧でスマートなエスコートに、おぼさんの涙腺は崩壊寸前…。そして、新しいルートも発見するオマケ付きで、無事に駅に到着。アイジュもかわいいお姉さんと一緒に、ゴムまりのように弾んでタツカカタ〜♪北風の冷たさも吹き飛ばすほど、暖かさに満ちた一日になりました。

神奈川県藤沢市

倉垣内 聡美さん&盲導犬アイジュより

編集室より

サザンオールスターズの関口和之さんが神奈川訓練センターを訪問してくださいました。当日は協会職員と対談、犬との信頼関係の築き方にも触れ、アイマスクを着けて盲導犬との歩行を体験。その様子がファンクラブ会報誌『代官山通信157号』（2022年2月中旬発行）に掲載されました。

盲導犬や視覚障害について正しい理解が広まるよう、協会はこれからもさまざまな形で広報活動に力を注いでいきます。

●「盲導犬くらぶ」の感想やご意見、盲導犬との出会いやエピソードなどを盲導犬くらぶ編集室までぜひお寄せください。1通1通のお便りが私たちの大きな励みとなります。

●あて先
公益財団法人日本盲導犬協会 盲導犬くらぶ編集室
〒150-0045 東京都渋谷区神泉町21-3-3F
FAX:03-5452-1267
e-mail: info@moudouken.net



AD 一般社団法人日本自動車販売協会連合会
JAPAN AUTOMOBILE DEALERS ASSOCIATION

自販連では、公益信託自販連盲導犬育成基金を設立し、全国の目の不自由な方々に、盲導犬貸与の助成事業を行っております。



〒105-8530 東京都港区芝大門1-1-30 日本自動車会館15階
TEL: 03-5733-3105



お客様からご注文いただいた商品1袋につき1円を
いちえん あいききん
『一縁のeye基金』として積み立て、
その一部を盲導犬育成支援に活用しています。



あなたから始まる次代への健康物語

わかさ生活